第１回生駒市総合計画審議会　第三部会

開催日時　平成３０年７月２５日（木）１３時３０分～１５時４０分

開催場所　生駒市役所４階　４０１・４０２会議室

出席者

（ 委 員 ）高取委員、谷中委員、藤尾委員、村上委員

（事 務 局）坂谷秘書企画課長、岡村秘書企画課課長補佐、日高秘書企画課主幹、
片山秘書企画課員

欠席者　　なし

１　開会

２　案件

（１）各小分野の検証（№211・212・213・221・222・223・231・232）

（２）その他

３　閉会

以下、発言要旨

１　開会

【 事 務 局 】　ただいまから、第１回総合計画審議会　第三部会を開催します。

【 事 務 局 】　（資料確認）

２　案件

（１）各小分野の検証

Ｎｏ．２１１　母子保健

【高取部会長】　行政の判定はＢ、審議会の評価も全員Ｂである。意見はあるか。

【 各 委 員 】　（特になし）

【高取部会長】　評価はＢでよいか。

【 各 委 員 】　（異議なし）

Ｎｏ．２１２　保育サービス

【高取部会長】　行政の判定はＣ、審議会はＣが３人、Ｄが１人である。意見はあるか。

【谷中委員】　Ｂでもよいのではないかと思った。指標は達成していないが、客観的に見て、この分野は頑張っていると思う。

【高取部会長】　指標をどのように判断するか。私的理由での待機も一定数いるとのこと。

【藤尾委員】　少子化が進む中、専門職ではない直接的な損得関係がない住民レベルの活動がますます必要になると思う。他市に比べても生駒市は母子保健も保育サービスも手厚く、１人の子どもに関わる専門職の人数も多い。しかし、今の若い母親のニーズは、保育所に入れればよいだけでなく、「こんな保育サービスをしてほしい」と高いレベルにある。母子保健に関わる人が今後高齢化することに備えて、今のうちに住民ボランティアを作ったほうがよい。少子化により若い母親の孤立や虐待などの問題が増えている。子どもを間に挟んで様々な人と会話をする機会を多く作るのも１つの策である。

【高取部会長】　昨年度のＣから改善傾向がなく、依然として目標値からかけ離れている状態である。そもそも０という目標が妥当かどうかという問題がある。「実情はそれほど悪くない」という意見もあるが、それなら目標は妥当ではないのだと思う。Ｃ評価が多数であり、私的理由による待機者を除く児童数を加味するならＣで良いと思う。

【事務局】　平成２６年まで厚生労働省に単純待機を報告していたが、平成２７年から実質待機で報告するように変わった。生駒市は保育所の整備や誘致で、平成１６年比で倍以上の保育所定員を確保してきた。しかし少子化とは言え保育ニーズが高い状況が続き、その差が待機児童になっている。

【谷中委員】　行政としては、０以外の目標は掲げることはできないのだと思う。

【高取部会長】　しかし、絵に描いた餅になってしまわないか気になる。

【事務局】　ある程度現実的な数値にするよう、作成当時、徐々に下げて平成３０年に０を目指したが、想定以上に保育所ニーズが高い。幼稚園での対応も進めているが追い付かない。今後は少子化の影響で空きが出てくるため、ハード面にコストをかけ過ぎないよう、検討を進めている。

【高取部会長】　平成２７年度から３０年度はむしろ逆行しているため、１０年後の目

標達成は無理と思える。そういう意味で目標値の設定はどうなのかと思う。

【谷中委員】　高齢者の中には、子どもにばかりコストをかけるのは全体としておかしいと考える人もいる。少子化を考えると目標値０は微妙な問題である。

【高取部会長】　達成できないことが分かっている目標をなぜ設定するのか。平成３１年以降に少子化が効いて一気に数値が下がるなら分かるが、それも見えにくい。

【事務局】　第３回の第６次計画についての審議で担当課から指標を示すが、今のところは同じ指標となっている。

【高取部会長】　指標の目標値をそれほど重視しないなら、それほど悪くないという意見もある。Ｃでよいか。

【各委員】（異議なし）

Ｎｏ．２１３　子育て支援

【高取部会長】　行政の判定はＢ、審議会はＢが３人、Ｃが１人である。

【藤尾委員】　「地域で育てる」と言うが、子どもは当事者の責任で育てるものなので他人の介入は微妙である。母子保健の活動は、年間通して健診の手伝いや子守りなどを行っている。昔は見てくれるところがなく、子どもを抱えて健診などを受けるのが当たり前だった。行政が様々な施策を提供している割に住民はそこまで深く感じてないのではないか。若い人が何を求めているかが分かりにくく、われわれもスタッフとして悩んでいる。民生委員の立場ではどうか。

【谷中委員】　小学校や幼稚園と協力して年に１～２回子どもたちと昔遊びをする機会があるが、皆楽しそうにしている。そのような機会がもっとあれば、子どもも親も喜ぶ。民生委員としては、「小さな親切、大きなお世話」を気をつけている。若い人も行政があまり手を差し伸べ過ぎると自主性が損なわれるのではと思う。

【高取部会長】　村上委員はいかがか。

【村上委員】　昔は何の知識もない人でも「子どもを見てあげよう」と言えた。近所の目があることがよかったが、今は資格もない者が口出ししてよいか躊

躇する。今は皆が離れて住み、子どもに手を出せない距離にあるため、昔のよかった点を今風に変えていくことが必要だと思う。今は便利になったが気持ちがないと感じる。昔は軽く会釈してあいさつを交わしていたが、今は「知らない人に関わってはいけない」という教育だけが行き渡り、「こんにちは」と言っても返事が返ってこない。このようなことがすべて地域、保育、子育てにも関わってきているのではと思う。

【高取部会長】　評価としてはＢでよいか。

【 各 委 員 】　（異議なし）

Ｎｏ．２２１　幼稚園教育

【高取部会長】　審議会の評価はＢとＣに分かれている。

【谷中委員】　基本的にはＢでよいが、今重要な項目である耐震化率はさらに努力が必要ということで、Ｃと厳しくしたほうがよいのではという思いである。

【 事 務 局 】　幼稚園の耐震化率は、高山幼稚園と北倭保育園がこども園化して合併するため、高山幼稚園はあえて耐震化しなかったことで９０％になっているが、こども園化することで、次は１００％になる。

【藤尾委員】　中保育園は、５０人くらいのクラスで大騒ぎしていた昔の幼稚園レベルになっているが、少人数より、あれくらい人数が多い方が子どもが元気で、子ども同士が切磋琢磨してよいかもしれない。

【高取部会長】　「幼稚園と小・中学校との連携事業数」という指標は目標値が達成されている。「幼稚園教育」は、行政の進捗度のＢと同じくＢでよいか。

【 各 委 員 】　（異議なし）

Ｎｏ．２２２　学校教育

【高取部会長】　行政の進捗度はＢ、審議会はＢが３人、Ｃが１人である。

【谷中委員】　「１日当たり３０分以上読書をしている小･中学生の割合」という指標が適切なのか疑問に思う。

【 事 務 局 】　全国学力・学習状況調の中から取っているが、第６次でもこれを指標に入れるかどうかは確認する。

【高取部会長】　１０年後も達成できないのは明らかなため、指標としてどうかと思う。

【 事 務 局 】　次の再編で、学校教育と特別支援教育が一緒の分野になるので、指標についても再考する必要がある。

【高取部会長】　４年後のまちとして想定しているものを測るための指標であることが必要だが、「１日当たり３０分以上読書をしている」がそれにつながるとは思えない。不登校の子が学校に復帰するときにうまくクラスに馴染めるよう橋渡しをすることが大事だと思う。そのようなことの充実こそが、「子どもの個性や自己有用感、自他の生命を尊重する意識をはぐくみ、心の教育が充実している」や「児童生徒が安心して楽しく学ぶことができる環境が整えられている」などにつながるのではないかと思う。

【藤尾委員】　５年後はそのような精神的なものがもっと重要になる。人権擁護委員として相談を受けているが、不登校の相談も多い。親は学校には言いにくく、どこにすがればよいか分からない。今は携帯電話で書き込みをされて弱い子どもが閉じこもるなど、教室の中だけで何もかもが動いていく時代ではなくなりつつある。１日当たり３０分以上読書をすればよい子どもに育つというのは、５０～６０年前のことである。今は、いじめがあったときずっと引き継いで消せなくなっている。５年後、１０年後が心配である。

【 事 務 局 】　第６次の指標については、担当課も来て説明をするため、そのときにも意見をいただきたい。

【高取部会長】　評価については、Ｂでよいか。

【 各 委 員 】（異議なし）

Ｎｏ．２２３　特別支援教育

【高取部会長】　「本人及び保護者のサポートを希望する」という意見が出されている。

【藤尾委員】　家族皆が閉じこもっている家庭があるが、そのような人に手を差し伸べる地域であることや、そのための様々なものが必要と痛感している。本人が何を望んでいるかが置き去りにされていると感じる。住民の熱意でグループを作って皆でサポートする体制づくりが必要である。会がある場合、「ここまでしかできない」と会に縛られる部分があるため、そのようなものから離れた、意欲のある高齢者による体制ができればよい。

【高取部会長】　特別支援が必要な同級生のことを、子どもがどのように見ているか分からない。接点もあまりないため、別世界の子どものように思っているかもしれない。掲げている指標はほぼすべて目標値を上回っており、審議会も全員Ｂなので、Ｂでよいか。

【各委員】　（異議なし）

Ｎｏ．２３１　生涯学習

【高取部会長】　行政の進捗度はＢだが、審議会はＡが１人、Ｂが３人である。

【藤尾委員】　生涯学習は、以前は約２００のグループがあり長年活発にやってきたが、当時５０～６０代の人は２０年後に８０代に近づきグループがほとんどなくなっている。寿大学のモットーとして、「ここで学んだことを生かして、自分が住む地域で何らかの活動をする」ということが基本になっているため、事務局はそれをもっと伝える努力をすべきである。

【高取部会長】　生涯学習は、高齢者だけでなく全世代の話で、小学生や若者も含まれる。「市民１人当たりの図書貸出冊数」が指標の一番上にあり、達成できていないが、生涯学習の指標としては違和感がある。指標を変えれば、達成しているものがあるのではないか。達成できていない項目が多いのにＢなのかという印象もあるが、そもそも指標がふさわしいのかという思いもあり、私自身もＢでよいと思う。

【藤尾委員】　毎日のように、子どもや若い人が集まるイベントがありすごいと思いうが、地に足がついていないようにも感じる。

【谷中委員】　「市民の実感度」は、「どちらとも言えない」、「どちらかというとそう思わない」が意外と高い。「どちらとも言えない」はあまりよくないという意味だと思う。漠然とした実感度は少し違うという印象がある。

【高取部会長】　私の大学内にも図書室はあるが、図書室に行く学生はあまりおらず、パソコンで検索している。小学生は物語を借りたり、図書係をしたりしているが、調べもののために図書室に行くことにはギャップを感じる。

【藤尾委員】　私は３０年間、学童保育の子どもを部屋に７０人集めて魚の頭を取ってはらわたを取って開くことを体験して食べてもらっている。このような、「美味しい」、「体によい」、「命の大切さ」を学ぶようなことが

本当の生涯学習である。体験型の生涯学習を広げていくことが必要である。

【谷中委員】　体験は昔の子どもも面白がっていたが、今の子どもも同じように面白がっている。楽しいと思うことは、昔とあまり変わっていない。

【藤尾委員】　生まれたばかりの子どもは１００年前も同じで、生まれた後に大人が歪めている。はらわたを臭って、子どもが「いわしのにおいがする」と言ったり、「新しい魚はいいにおいがする」、「骨って美味しい」と言うことがあり、子どもから教えられることもある。

【高取部会長】　今は、昔遊びはなくなってきている。ちょっとしたことでも、紙飛行機などの体験型のものは、後々まで覚えている。

【藤尾委員】　目の前で竹とんぼを作るのを見て飛ばせてもらったときに「おじさんはすごいな」と思ったことを、今でも覚えている。紙飛行機の作り方もパソコンで調べれば載っているが、実際に作らなければ紙飛行機はできない。体験型をもっと大事にする生涯学習が必要である。

【高取部会長】　評価はＢでよいか。

【各委員】（異議なし）

Ｎｏ．２３２　青少年

【高取部会長】　行政の進捗度はＢだが、審議会は４人ともＢである。

【谷中委員】　アンケートなので、実際の状況が反映されているとも限らないが、市民実感度はそれほどよくない。

【高取部会長】　選択肢に「どちらとも言えない」があると、大抵はそこがもっとも多くなるため、「どちらとも言えない」は入れない方がよいかもしれない。

【高取部会長】　今の学生はゆとり世代からさとり世代と言われている世代だが、昔とは異なり欲望があまりない。私たちの時代は、「少しでもいい車に乗りたい」、「いいかっこをしたい」などと思っていたが、今の若者にはそのような気持ちは少ない。それを加味しても、４年後のまちの「地域社会の中でリーダーとして積極的に活動できる青少年の育成が進んでいる」もどうだろうと思う。

【谷中委員】　アメリカの教育の影響かもしれないが、「リーダーを育てる」とよく

あるが、皆がリーダーになれるわけではない。

【 事 務 局 】　市役所でも管理職になりたくない人は多く、そのため、内部の試験のやり方を変えたりしている。

【高取部会長】　結婚への興味も薄れてきており、結婚に何のメリットがあるのかと言う。青少年の指標なら、ニートの数、ひきこもりの数のほうがよい。「地域社会の中でリーダーとして積極的に活動できる青少年の育成が進んでいる」は今の若者をイメージすると到達できない。「４年後は生駒市のひきこもりは０」のほうが青少年の育成を反映する指標だと思う。評価については、Ｂでよいか。

【 各 委 員 】（異議なし）

（２）その他

【 事 務 局 】（原案作成シートのサンプルと意見記入シート説明）

【 事 務 局 】　（事務連絡）

【高取部会長】　これをもって、第１回総合計画審議会　第三部会を終了します。

―― 了 ――